

CONTENTS

● 一般社団法人音楽電子事業協会第9回通常総会報告	1
● 新任役員紹介	2
● 令和2年度年度役員名簿・組織図	3
● 令和2年度事業計画	4~5
● 国立科学博物館 産業技術史資料(未来技術遺産)登録について	6~7
● AMEI会員名簿・第9回通常総会議事録の開示報告	8

一般社団法人音楽電子事業協会 第9回通常総会報告

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大対応の為、令和2年度第1回理事会・幹事会及び総会・懇親会のメトロポリタンエドモントホテルでの実施を見送り、メール審議にて実施することと致しました。

令和元年度第3回理事会/第2回幹事会につきましては、議案書を事前にメールにて配布し、3月18日までに理事・幹事全員より承認を頂き、4月6日に発出された「新型コロナウイルス緊急事態宣言」を受けて、令和2年度第1回理事会・幹事会及び第9回通常総会についても、メール審議にて実施することとし、令和2年度第1回理事会/幹事会につきましては、5月11日までに承認を頂き、同日 AMEI 会員各位へ第9回通常総会議案書を配布し、メール審議を実施しました。

■総会冒頭伊藤会長挨拶

本年は新型コロナウイルス禍により理事会、総会が書面での実施となりました。紙面を持ちまして一言ご挨拶をさせていただきます。先ずは、会員の皆様におかれましては、各委員会にて MIDI 2.0 開発、改正著作権法に関する検証、安全・環境規制情報の共有、検定の実施等、活発に活動を頂きまして、ありがとうございます。とりわけ、今年に入りましてからはコロナウイルス感染拡大防止の為にリモートでの会議、ウェブでの情報共有等、大変不自由な中、夫々に工夫をしながら、課題への取組を進めて頂いている事に心から敬意を表したいと思います。

準備を進めておりました MIDI 2.0 が2月25日にプレスリリースされ、MIDI 2.0 主要規格書のダウンロード配布を開始し、5月6日には MMA と MIDI-CI Property Exchange Foundational Resources and Basic Resources の署名を終える事が出来ました。また、令和元年1月1日より施行されました著作権法の一部改正により「柔軟な権利制限規定」が導入された事への対応として、会員の皆様での情報共有を進め、権利者と利用者の双方に配慮しながら、個々の事業の活性化と市場への貢献を頂きました。

昨年の総会の挨拶でも申し上げましたが、デジタルトランスフォーメーション (DX) が急速に進んでいる中、音楽における DX も進んできています。特に、この新型コロナウイルス禍において、その流れは更に加速していくものと思います。そして、その後の社会変容の必要性が唱えられる中、当協会の役割の重要性はますます増してまいります。例えば、経済産業省にて進められています Edtech においても、音楽教育を例にとりますと、学習履歴 (スタディ・ログ等) のデジタル化が必須です。また、リモートワークが進む中、様々な形で音楽・演奏データの活用も必要となります。最後になりますが、新型コロナウイルスは会員各社の事業にも多大なる影響を及ぼしており大変な状況と存じます。何卒、衆知を結集してこの危機的な状況を乗り越え、更に、業界として次の社会展望に向けた取組を進めて頂きます事を、そして皆様のご健勝を心より祈念致します。

■令和2年度総会議案書配布

- 第1号議案 令和元年度 事業報告承認の件
- 第2号議案 令和元年度 収支決算承認の件
- 第3号議案 令和2年度 事業計画 (案) 審議決定の件
- 第4号議案 令和2年度 収支予算 (案) 審議承認の件
- 第5号議案 令和2年度 定款変更の件
- 第6号議案 役員選任の件

について、AMEI 正会員全員の承認を頂き、令和2年度選任理事の互選による役員選任の為の臨時理事会をメール審議にて開催、令和2年度選任理事全員の合意により、令和2年度一般社団法人音楽電子事業協会役員及び顧問 (案) が承認され、すべての審議を終了致しました。

令和2年度 新任理事・幹事・監事のご紹介

新副会長のご紹介



ローランド株式会社 技術部門 執行役員 水本 浩一
度重なる困難に安堵のいとまなき世情ながらも、皆様におかれましては、新常态でのおのがり方を模索すべく意気新たにされていることと存じます。

このたび、5月14日の音楽電子事業協会 第9回通常総会にてのご承認により、本協会の新任理事に選出いただきました。ここに改めてお礼申し上げます。

弊社ローランドは電子楽器専門メーカーとして1972年の設立以来、楽器のイノベーションとそれがもたらす音楽文化の創造に努めてまいりました。技術の進化に伴い性能やスピードも向上させ、製品自体をイノベーションの体現として世に問うてきました。しかしイノベーションの現れ方は、人々や市場の移り変わりによって変化します。単独の楽器で実現するものから、他とのつながりや、使われるシーンの中で発揮されるものとなっています。それに伴い、一つの楽器からコンピュータやネットワーク、映像機器などとのシ

ステムで、そしてメーカーから業界で、実現すべきものとなってきました。

ここに業界団体である AMEI の果たすべき役割もあると考えます。AMEI の活動内容の一つに「MIDI 規格の追加・変更、MIDI 規格書の発行、ID ナンバーや MIDI 関連ロゴの登録」があります。1983 年の誕生以来、そのままだった MIDI1.0 も世の技術の進化に合わせてついに今年 (2020 年)、MIDI2.0 へとバージョンアップしました。新規のロゴも出願中です。もちろん、規格だけでイノベーションは達成されません。ここから、進化した楽器、音楽制作、コンテンツが世に出て、ひいては音楽文化の進化ももたらされると考えます。そのためには規格の運用、著作権の扱い、他業種との取決め、市場の啓発などの課題が控えています。AMEI にはそれらにかかわる業界のメンバが揃っています。それぞれが持つ経験、見識や専門性をもって課題に当たれば、業界全体の進化、ついに新たな市場の創造ももたらすものと信じております。水本も微力ながら本職において、その進化に寄与していければと考えております。業界の皆様におかれましては、よろしくご指導、ご支援賜りたく存じます。よろしく申し上げます。

新任常務理事のご紹介



株式会社エクスティング 代表取締役社長 水谷 靖

AMEI 会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、第9回通常総会におきまして、常務理事を務めさせていただきますことになりましたので、ここに謹んでご挨拶申し上げます。弊社は通信カラオケメーカーとして歌うことの喜びや楽しさを提供するという観点から1992年から約30年近くにわたり電子音楽と深くかかわり続け、MIDIでのカラオケ音源の制作や新たなコンテンツの創

出、カラオケ専用 MIDI ソフト音源の開発等に努めてまいりました。

ネットワークをはじめとする様々な技術の進歩により弊社の提供するサービスも進化、多様化してまいりましたが、今年に入り新型コロナウイルスの感染拡大の影響の為、音楽産業を取り巻く環境は大きく変化いたしました。

音楽産業の復興には音楽産業も新しい生活様式に如何に対応していくかがとても重要であると認識しております。

AMEIでの活動を通して音楽産業へ貢献するよう微力ながら尽力する所存でございますので、今後とも会員の皆様のご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

新任理事のご紹介



株式会社コルグ 取締役 伊東 智子

AMEI 会員の皆さまにおかれましては、COVID-19 との生活様式にまだまだ戸惑いある日々ではございますが、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、各地記録的な集中豪雨により被害に遭われた皆さまには心よりお見舞い申し上げます。この度、当協会の理事に就任させていただきますことになりましたので、謹んでご挨拶申し上げます。COVID-19 という名を後にしたのは令和初めての正月からほどなくしてからでした。その後、手洗い・マスク着用励行からあつという間に、3密を避け社会的距離をとることを求められるようになりました。そこから音楽をライブで楽しむ場が閉じられ、スタジオ練習やお教室、カラオケなど、それまであたりまえに満たされた音楽を楽しむ外の場が奪われてしまいました。音楽はどうなるのでしょうか不安はありますが、それでも今は、音楽を求め楽しむことは人間のもともとの性質にあるも

ののだということ、カタチが変わっても簡単に失われることはないと思っております。外出自粛のなかでも、数年前には思いもよらなかった音楽体験がインターネットを介して提供され、交換され、再発見されました。自分でも音楽をつくってみよう、この機会に楽器をやってみよう、同時に100人単位の Web 会議ができるなら大人数の合奏もできるはずだからやってみよう、などなど、こういうときだからこそ音楽を楽しもうと思った人たちが世界中にあんなにたくさんいたと驚き、心強くもなりました。

このように、これからも我々を取り巻く事業環境やテクノロジー、そして人々のライフスタイルはめまぐるしく、さらに大きく変化していくと思われまます。そのうち中だからこそ、AMEI の充実した活動が社会への貢献に、そして業界の更なる発展につながっていくのではないかと考えます次第です。はなはだ至らぬ身ではございますが及ばずながら努力して参る所存ですので、今後とも皆さまのご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。



**カシオ計算機株式会社 開発本部
コンシューマ開発統轄部 第二開発部部長 林 龍太郎**

AMEI の皆様におかれましては、ウィズ/アフター・コロナの、この目に見えない禍との付き合い方を試行錯誤されていることと存じます。

このたびコロナ禍の第9回通常総会にての実施ではございましたが、令和2年度臨時理事会および第9回通常総会におきましてご承認いただき、岩瀬前理事の後任を務めさせていただきますことになりましたので、謹んでご挨拶申し上げます。

弊社は1980年に「すべての人々に音楽を奏する喜びを」という思いで電子鍵盤楽器の分野に参入し、以降は管・弦・打楽器やダンスミュージック関連機器なども提供しながら40年が経ちました。近年は鍵盤楽器中心の事業となっております。

社会全体に目を向けてみますとコロナ禍に対処すべく働き方改革の流れが一気に進み、時差 Biz やテレワークが当たり前となる中、音楽・楽器分野においては、自宅で楽しめるコトとして、聴くというパッシブな楽しみ方だけではなく、演奏や制作といったアクティブな楽しみ方が再認識されてきたように感じられます。また DX の基本インフラとなる 5G の本格稼働もすぐそこまで来ております。その特徴である「高速大容量」「高信頼・低遅延通信」「多数同時接続」という基本機能の恩恵の全てを同時に享受することはできませんが、新たな音楽サービスの可能性を感じざるを得ません。

このような社会の動向を鑑み、もう一度初心にかえり「すべての人々に」対し「音楽体験」を提供し、新たな音楽文化の創造に貢献させていただく所存です。微力ではございますが、AMEIでの活動を通して音楽産業の更なる発展に寄与できるよう尽力してまいりますので、皆様のご指導ご鞭撻の程、よろしく申し上げます。



クリムゾンテクノロジー株式会社 代表取締役 飛河 和生

新型コロナウイルスによる未曾有の災禍の中、会員の皆様におかれましては、ご苦労はいかほどかと拝察致します。

このような時に大変恐縮ではありますが、この度、当協会の理事に就任させていただきますことになり、ここに謹んでご挨拶申し上げます。

弊社は2002年に設立し、その後多くの MIDI / カラオケ / 音楽関連ソフトウェアの開発やソフトウェアアシスタント提供、楽曲配信アプリケーション業務などを行なっています。さらに最近では AI を用いたリアルタイム音声変換 (リアルタイム音質変換) や brAlmMelody (バイタルセンシングデータを用い、メンタルパフォーマンス活性化のためのサウンドによるマインド・ウェルネス・ソリューション) などの AI エンターテインメント事業を展開しております。

また私自身は、CD+MIDI や General MIDI (GM) の規格標準化提案に始まり、最近の

MIDI2.0 規格に至るまで30年以上にわたり、MIDI の規格標準化作業にかかわらせていただき、現在は MIDI 規格委員会委員長を仰せつかっております。MMA (MIDI Manufacturers Association) とのパートナーシップも長い年月を経て、近年では、かなり緊密で良好な関係を築くことができている。MMA とのパートナーシップに基づく迅速な規格審議制定に向けた体制構築を行い、さらに電子楽器業界のみならずモバイルや PC、カラオケをはじめとした幅広い業界へのアピール/浸透度もかなり増してきました。

世界標準として今も多くのユーザーに使われている MIDI 規格を通じて、多くの方に音楽の楽しみをもち、新しい音楽文化の創造に貢献したいと考える所存です。また経済の先行きが見通しづらい状況ではございますが、AMEI 会員の皆様のご支援、ご指導を賜りつつ、微力ではございますが、これからも AMEI の活動を通して業界の発展、また音楽文化の発展に寄与していければと思っております。何卒宜しくお願い申し上げます。

新任幹事のご紹介



**株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス
ミュージックメディア部 マーケティング担当部長 倉持 貴志**

AMEI 会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、当協会の幹事に就任させていただくことになりました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

弊社はヤマハグループのソフト事業部門を集結し、2007年に設立されました。以来、楽譜出版事業、音楽コンテンツ配信事業、音楽出版事業、音楽プロダクション事業、レベル事業を通じて、お客様に音楽への憧れ・きっかけをもち、時代に合った音楽の演奏・学習の楽しみ方をお届けできるよう努めております。

現在世界はコロナ禍により新しい生活様式を模索している最中ですが、音楽の楽しみ方にも変化が生じていることをデジタルコンテンツ制作、配信サービスの運営を通じて実感しています。デジタル音楽コンテンツの需要は急増し、ネット上の音楽コミュニケーションも活性化しています。弊社も引き続き、楽譜や MIDI をはじめとする演奏支援向け音楽コンテンツを拡充し、移り易い流行、お客様ニーズの多様化に適応した新サービス開発と合わせて音楽ファンに提供して参りたく、準備を進めております。

微力ではございますが、そのような事業活動と AMEI 参加の業界活動を通じて、音楽文化の発展と with コロナ生活において音楽がたくさんの人の心に癒しをもたせられるよう貢献して参りたいと考えております。

会員の皆様のご支援、ご指導を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

新任監事のご紹介



平成音楽大学 客員教授 古山 俊一

AMEI 会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、令和2年通常総会におきまして当協会の監事に就任させていただきますことになりました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

私は AMEI 創成期より MIDI やデジタルコーディング関連のセミナー、テキストの開発などを行ってまいりました。さらにメディア・コンテンツ委員会委員長として楽器フェアなどのイベントで、デジタルコーディング、ハイレゾリューションオーディオ、黎明期の電子楽器などのテーマでセミナーを

行いました。この20数年を振り返ると電子楽器や音楽制作の世界もコンピュータ技術の発達、信号処理や通信の高度化が反映され現在進行形ではありますが、大きな変化があります。私自身もユーザーの一人として変化の波に翻弄されております。

そんな中、MIDI も新しい 2.0 規格が策定され本年2月には規格書も発表されました。このエポックメイキングな新しい規格の登場によって電子楽器、アプリケーションのみならず音楽・音響制作の手法が大きく変化、発展していくことが期待されます。AMEI の活動の重要性がさらに高まって行くと思っております。

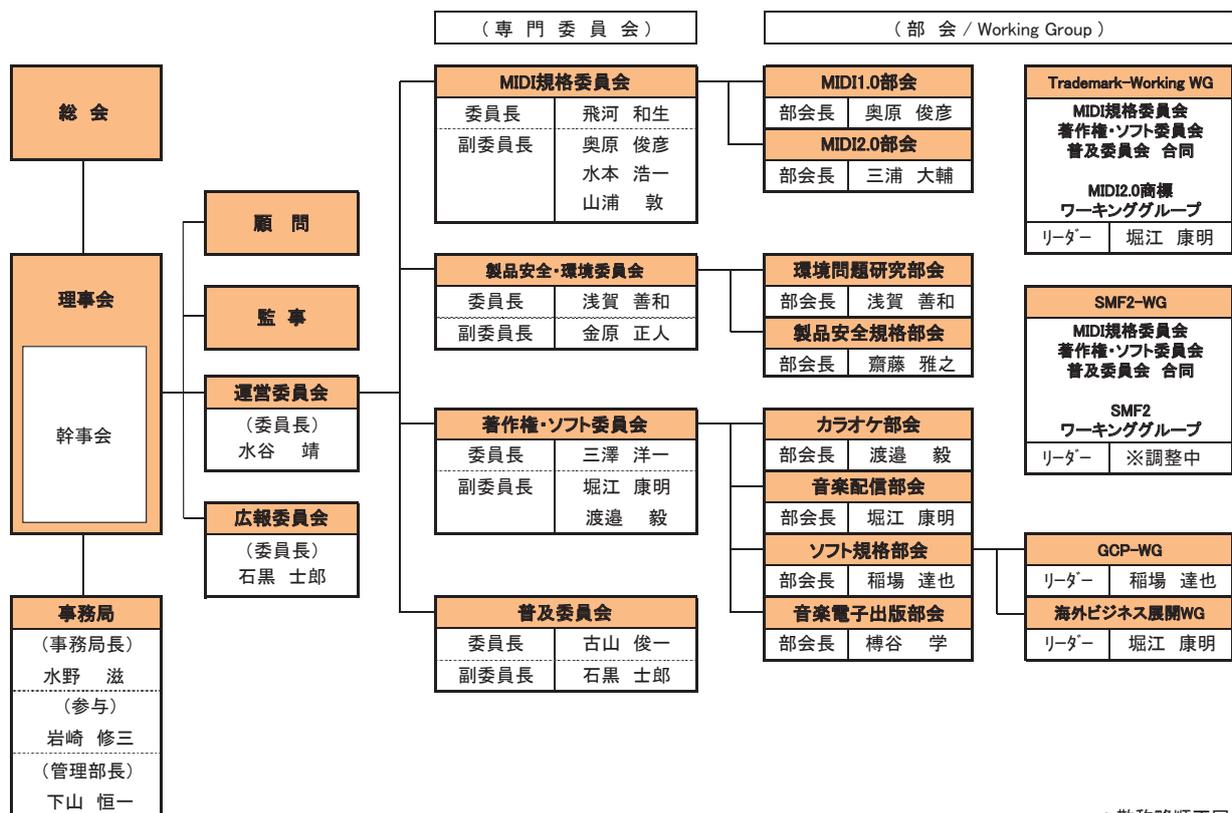
大きな変革の時期に AMEI の活動に微力ながら寄与できることは大変光栄なことであると同時に身の引き締まる思いでございます。今後ともよろしく申し上げます。

令和2年度 一般社団法人音楽電子事業協会役員名簿

理事会 幹事会役職	氏名	会社名	役職
会 長	伊藤 公保	ヤマハ株式会社	顧問
副 会 長	佐々木 隆一	株式会社東京 MDE	代表取締役
◇	水本 浩一	ローランド株式会社	執行役員
◇	和田 康孝	株式会社第一興商	専務取締役 兼 上席執行役員
専務理事	水野 滋	一般社団法人 音楽電子事業協会	専務理事
常務理事	水谷 靖	株式会社エクシング	代表取締役社長
理 事	伊東 智子	株式会社コルグ	取締役
◇	中西 正人	株式会社フェイス	専務取締役
◇	林 龍太郎	カシオ計算機株式会社 開発本部	コンシューマ開発統轄部第二開発部長
◇	飛河 和生	クリムゾンテクノロジー株式会社	代表取締役
幹 事	倉持 貴志	株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス	出版部制作部長
◇	白壁 依里	Apple Japan 合同会社	政務部部长
◇	鈴木 周司	株式会社鈴木楽器製作所	取締役
◇	辻 浩己	学校法人 尚美学園	法人本部長
◇	箕輪 匡文	株式会社河合楽器製作所	取締役
◇	村上 昇	株式会社インターネット	代表取締役
監 事	三木 康司	株式会社シーミュージック	代表取締役
◇	古山 俊一	平成音楽大学	客員教授
顧 問	日吉 昭夫		

* 敬称略・50音順（常勤役員は専務理事のみ、他の役員は非常勤です。）

令和2年度 組織図 一般社団法人音楽電子事業協会



一般社団法人音楽電子事業協会 令和2年度事業計画 委員会活動 (案)

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

1 全体

以下各委員会活動は、定款（事業）第4条の各項に準ずるものとする。

2 製品安全・環境委員会

活動方針

製品安全規格・環境問題研究両部会での情報交換と、各法規制からの要求事項に対する解釈のレベル合わせのための活動を継続し、電子電気楽器及び関連機器製品の安全性確保と環境問題への対応推進を図る。

事業計画

「製品安全規格部会」：4月浜松、7月東京、10月浜松、1月東京 原則第3木曜日開催を予定。

「環境問題研究部会」：4月東京、7月浜松、10月東京、1月浜松 原則第2火曜日開催を予定。
両部会とも緊急な審議等、必要に応じて臨時開催を行うこととする。

活動テーマ（情報交換の対象など）

「製品安全規格部会」

- (1) 安全規格の動向調査
 - ・電気用品安全法省令、解釈及び規格
 - ・国際規格 (IEC)
 - ・北米規格 (UL, CSA)
 - ・欧州規格 (EN)
 - ・中国、韓国、台湾、ユーラシア関税同盟 (EAC)、その他各国
- (2) EMC 規制に動向調査
 - ・国際規格 (CISPR)
 - ・北米規格 (FCC, ICES)
 - ・欧州規格 (EN)
 - ・中国規格、韓国規格、その他
- (3) その他の動向
 - ・各国の省エネルギー制度
 - ・各国の電波法・無線規制
 - ・PL 関連情報

参加団体

- ・JEITA マルチメディア EMC 専門委員会
 - ・JBMA 第108委員会
 - ・電気用品調査委員会の電波雑音部会
 - ・電気製品認証協議会
- ※電安法への要望の窓口となる参加団体については引き続き調査をする。

「環境問題研究部会」

- (1) 化学物質規制・管理法関連の動向調査及び情報交換
 - ・EU RoHS, EU REACH
 - ・CN RoHS, GSO RoHS, EAEU RoHS
 - ・US TSCA, Proposition65
 - ・各国化学物質管理・規制法
- (2) 省エネルギー法・規制の動向調査及び情報交換
 - ・EU ErP Lot6
 - ・各国待機電力規制
- (3) 廃棄物・リサイクル法関連の動向
 - ・WEEE・各国容器包装法
- (4) ホルムアルデヒド規制（集成木材）の動向
 - ・中国 GBT の進捗
- (5) その他の動向
 - ・違法伐採・木材管理法関連（CITES 含む）
 - ・難燃剤規制の動向（EEE への波及）

・サプライチェーンにおける情報伝達（chemSHERPA など）
その他特記事項
両部会共同で AMEI EuP ガイドラインの改訂を予定。
（ErP Lot6 の進捗次第）

3 MIDI 規格委員会

活動方針：新たな MIDI2.0 の世界の実現

・MIDI1.0 規格も含めた全ての MIDI 規格の互換性の維持ならびに、MOT (MIDI of Things) のスローガンのもと、他業界も含めた MIDI 関連事業の発展を目的とし、新たな技術調査・研究を行いつつ、規格審議と標準化を継続実行する。

活動計画

・MIDI 規格委員会：ML にて審議を行い、会合は年に1～2回開催
MIDI2.0 規格の施行に伴い、MIDI 規格委員会内部とともに、AMEI 内にて組織改編を実施する

事業計画

「委員会全体事項」

MIDI1.0 と MIDI2.0 の位置づけの明確化と市場での混乱の防止
中国市場での MIDI 規格の普及啓発ならびに Music China への積極的対応
MIDI2.0 規格制定に伴う新たな作業の実行
各部会・WG 体制の見直し
各ドキュメントの審議と発行
規格のプロモーション、広報宣伝活動
ロゴの発行と管理運営基準制定
規格書の日本語化作業
ユーザーサポート体制
今後の MIDI 検定に関する検討
新たな市場に向けての新規会員企業の獲得

4 Trademark Working Group

活動計画

TM-WG/MIDI-2.0 部会（随時）

事業計画

・ソフト制作、著作権（許諾取得）の観点から、必要な規格、ルール作りへの提言を行う
・商標の権利化、運用ガイドラインの策定を具体的に実行する

5 著作権・ソフト委員会

活動方針

1. 会員各社の事業運営における著作権に係る問題点等を解決すべく、関係団体と協力し権利者との協議や文化庁に対する要望申し入れ等を活発に行う。また、著作権法の改正を含む様々な環境変化の中で生じる不具合については、積極的に関係省庁、権利者、管理事業者等に問題提起を行う。
2. 定例会を通じ各部会それぞれが取り組んでいる課題と成果をタイムリーに情報共有しつつ、委員各位の意見を吸収し部会活動に反映させることにより、会員個々の事業の活性化と市場の発展に貢献する。
3. MIDI2.0 の市場導入に向け、他委員会を積極的にサポートする。

活動計画

委員会 定例会 10 回（別表参照）、カラオケ部会 8 回程度、

音楽配信部会 15 回程度
ソフト規格部会 8 回程度、音楽電子出版部会 8 回程度、管理
事業法研究 WG (随時)

事業計画

「カラオケ部会」

- JASRAC との使用料規程第 10 節「業務用通信カラオケ」の改訂に関する継続協議。
 - 他の管理事業者が管理する楽曲の利用割合の反映に関する実務運用
 - 非管理楽曲が使用されている実態を勘案した利用割合に関する協議
 - その他、使用料規程の取扱いに関する協議
- 管理事業者の使用料徴収の一元的集中管理等の検討
- 株式会社 NexTone との使用料規程の改訂に関する継続協議
- その他、業務用通信カラオケに関わる案件対応

「音楽配信部会」

- 音楽配信に関わる問題点の情報交換・意見交換を著作権・ソフト委員会定例会の場にて実施すると共に、NMRC を通じ管理事業者との協議・関連団体との意見交換に反映させる。
- NMRC 実務 WG を通じて、実務上の問題点解決にむけ、管理事業者、関連団体との意見交換を実施する。
- 音楽配信部会での情報共有、意見の集約を積極的に行う。
- スマートフォン関連コンテンツのビジネスや著作権についての意見交換を積極的に行う。
- 関連部会や委員会との情報交換を密にし、部会での情報共有を行う。

「ソフト規格部会」

- MIDI 及び音楽関連ソフトウェア事業に関する情報交換、勉強会の実施。インターネットを始めとした新しいメディアにおける音楽電子事業の研究。
 - 著作権重要判決、紛争例の研究
 - クラウドと音楽ビジネス、AI の動向と楽器への影響に関する研究
 - 音楽教育を守る会と JASRAC との訴訟動向に関する研究
 - 改正著作権法に関する研究
 - 文化審議会著作権分科会の審議動向に関する研究
 - 適正な音楽利用に関する研究 (楽曲の権利判定、JASRAC 使用料規程など)
 - 外国の著作権管理団体に関する研究
- ワーキンググループによる諸問題の討議、検討、規格化と実践
 - 楽器内蔵コンテンツ等の保護に関する検討 WG (GCP-WG) の開催
 - メンバーニーズや話題性の高い議題に関する WG (海外ビジネス展開 WG) を開催。
- その他、規格に関する問題、課題等の検討 (随時)

「音楽電子出版部会」

- 電子楽譜サービスに関わる問題点の情報交換・意見交換を音楽電子出版部会にて実施し、同サービスの著作権料率案 (以下の要素を含む) の策定につなげる。
 - 支分権に対応させた電子楽譜サービスの言葉と内容の定義、各著作権料率の考え方の検討
 - 歌詞ストーリーミングの料率検討
- 部会を通じ、音楽電子出版に関する情報共有、意見の集約を積極的に行う。
- 関連部会や委員会との情報交換を密にし、部会での情報共有を行う

「管理事業法 WG」

- 著作権等管理事業法に係る諸問題について検討及び解決への取り組みについて研究継続

「委員会共通」

- 早稲田大学創造理工学部連携講座の実施 (秋期)

令和 2 年度 AMEI 著作権・ソフト委員会定例会開催予定表

回号	開催予定日 (案)	開催時間	備考
1	2020 年 04 月 09 日	13:30~15:00	
2	2020 年 05 月 21 日	13:30~15:00	5/14 総会のため繰下げ
3	2020 年 06 月 11 日	13:30~15:00	
4	2020 年 07 月 09 日	13:30~15:00	
5	2020 年 09 月 10 日	13:30~15:00	
6	2020 年 10 月 08 日	13:30~15:00	
7	2020 年 11 月 12 日	13:30~15:00	
8	2020 年 12 月 10 日	15:30~17:00	懇親忘年会
9	2021 年 02 月 04 日	13:30~15:00	2/11 祝日のため繰上げ
10	2021 年 03 月 11 日	13:30~15:00	

* 原則として、委員会は毎月第 2 木曜日とする

* 1 月及び 8 月は原則開催しないが、前々月までの活動状況に応じて必要であれば開催する
会場は、原則として AMEI 会議室 (水道橋) とする

6 普及委員会

活動方針

MIDI 規格の正しい理解と普及を目的として、教育 (MIDI 検定の実施継続)・普及 (MIDI 規格委員会・会員各社との連携によるイベント等の実施) について、各委員会と連携し、計画・提案を行う。

事業計画

MIDI 検定事業

「委員会開催予定」

- 6 月開催：2020 年度活動内容の確認と対策
- 11 月開催：2020 年度 MIDI 検定 3 級、2 級 1 次筆記試験の応募状況と 2 級 2 次対策

[2020 年度 MIDI 検定試験]

- 「第 12 回 MIDI 検定 1 級試験」2020 年 8 月実施
- 「第 23 回 MIDI 検定 3 級試験」2020 年 12 月実施
- 「第 22 回 MIDI 検定 2 級 1 次 (筆記) 試験」2020 年 12 月実施
- 「第 22 回 MIDI 検定 2 級 2 次試験」2021 年 2 月実施
- [2020 年度指導者認定講座]
- 「MIDI 検定 4 級指導者認定講座」2020 年 6 月に開催
- 「MIDI 検定 3 級指導者認定講座」2020 年 7 月に開催
- 「MIDI 検定 2 級指導者認定講座」2020 年 9 月に開催

イベント事業

- MIDI 規格委員会・広報委員会等と連携して、MIDI の普及イベントの計画
- 立案を行う。

7 広報委員会

活動方針

外部に対する情報発信機能を充実し、当協会の存在意義を広くアピールすると共に、会員に対する情報提供機能の充実により会員の連帯感を強め、当協会の積極的な活動を側面からサポートする。

活動計画

- 会報「AMEI News」編集会議 3 回
- セキュリティ強化対策の検討会議 1 回
- サステナビリティ強化対策の検討会議 1 回

事業計画

- 会報『AMEI News』の発行 (事務局との連携により推進) 年 3 回 (4 月、8 月、12 月予定) ホームページへの PDF ファイルの掲載
- ホームページの充実 (事務局との連携により推進)
- セキュリティ、サステナビリティ強化対策の検討の実施 (事務局との連携により推進)
 - 個人情報保護対策の強化検討
 - クラウドサービス利用の可能性検討

MIDI 1.0 規格書（日本語翻訳版）が国立科学博物館の「重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）」に登録

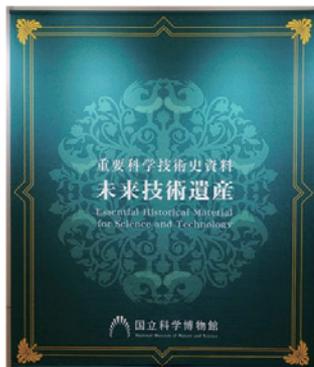
一般社団法人音楽電子事業協会 会長 伊藤 公保

この度、MIDI1.0 が重要科学技術資料（未来技術遺産）に登録をされ、9月15日に国立科学博物館において登録証授与式に出席してまいりましたので、ご報告します。

先ず、1983年のMIDI規格連絡協議会の設立から今日まで当規格の制定、改良、グローバルでの普及等にご尽力、ご努力頂きました皆様に心からお祝いとお礼を申し上げます。

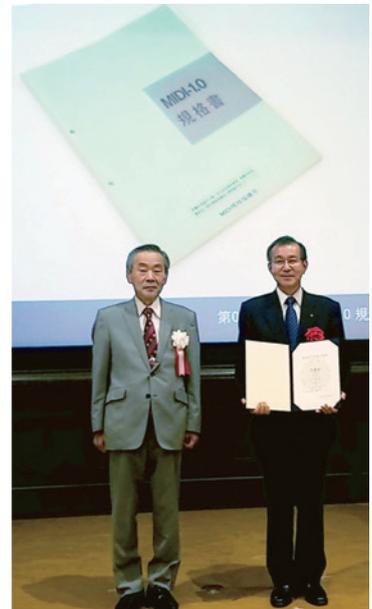
当重要科学資料は通称「未来技術遺産」と言われ、科学技術の発達上重要な成果を示すとともに次世代に継承していく上で重要な意義を持つ資料として国立科学博物館が登録実施をしているものである事は皆さまもご存知の通りです。

今回のMIDI1.0の登録は、デジタル技術と音楽の融合を進める技術として新しい音楽、音楽活動、人を生み出す原動力として高く評価頂けた事はもちろんのことですが、それが時代の変化に合わせて継続的に改良が進められ、新しい融合を生み続けている事が重要であると思います。そして、MIDI2.0規格への発展により、「次世代に継承して



いくうえで重要な意義を持つ」ものであることが改めて、認識頂けたものと理解しています。

最後になりますが、更にこの技術が様々な環境変化の中、未来の音楽業界の発展に寄与し続けるものであり続ける事へのご協力を改めて、皆様をお願いして報告といたします。



私の < AMEI & MIDI > 回想録

初代（1996～1999）MIDI規格委員会委員長 亀山 征二

国立科学博物館に日本語翻訳版 MIDI1.0 規格書の未来技術遺産として登録おめでとうございます。

私のMIDIの係りの始めは、米国の楽器フェア（NAMM）にたまたま出張した際、1982年2月7日アナハイムで開催されたNAMMショー会場近くのホテル（マリオットホテル）でのシンセサイザー・インターフェース会議の参加でした。

その後、音楽電子事業協会の前身である音楽電子産業協会の設立にあたりリットーミュージックの佐々木さん、ヤマハの中村さん、ローランドの壇さん、コルグの三枝さん、松下電器の宗廣さん等と共に大変なご苦労の中、音楽電子産業協会設立の基盤作りを行いました。平成8年には、音楽電子事業協会（AMEI）が設立され、MIDI規格委員会の委員長に任命され、AMEIでのMIDI規格との長い付き合いが始まりました。

音楽電子事業協会設立当時の世の中は、デジタル化時代へ急速な変貌を遂げ、マルチメディア対応が急がれる中、新たなMIDIの対応、発展、普及、が望まれておりました。

そんな背景のもと、新たに設立された音楽電子事業協会で、最初に取り組んだMIDI規格部会の主テーマは、

- ① GM レベル2 規格検討
 - ② MIDI の JIS に関する準備
 - ③ 歌詞付き SMF
- でした。

① GM レベル2 規格検討は、各社でGMを基にレベルアップした各社独自の規格（GS、XG他）が出回った結果、利用者にとって使用上混乱を招き、MIDI規格GMレベル2の創設なるものが望まれておりました。

GMレベル2フォーマットの作成を始めるにあたり、GMレベル2フォーマット作成基本方針として、各メーカーでフォーマット（GS、XG等）が作成され、既に普及し、音楽ソフト等に多くの労力と費用を費やした資産を有している実態のなか、全く新たなフォーマットを作成することは、現実的ではなく、弊害も考えられる中、

- i) GM2のレベルフォーマットは、基本部と細部に分割する。
- ii) 基本部については、GS、XGレベル他利用者が互換性を有した中レベルアップをする
- iii) 細部については、各メーカーが設定可能とする。

としました。

実際の作業にあったては、

イ) 各社多額の労力と費用をかけた多くの音楽ソフト等資産をすでに有する。

ロ) 楽器に各社の特徴を出すのは、楽器として生命線であるため、独自の特徴も生かせるようにしたい。

という背景の中、GMレベル2の作成作業は、予想以上に難航し時間と労力を要し、米国MMAの承認も得てなんとか平成11年7月に正式に発行されました。改めて、既存の規格を生かして、新たな規格を作成することの難しさを体験しました。

② MIDIのJIS規格化は、早稲田大学の山崎教授中心にご努力とご苦労により平成11年制定されました。世の中に大きくMIDI規格をアピールした一つの要因になりました。

③、歌詞付きSMF、GM Lite等が作成され、カラオケ、携帯電話等に利用されました。

これ等と並行し、MIDI規格を世界規格へ普及させるため米国MMA（米国はもちろん、ヨーロッパを含め統括）との連携、協議を深めるため、年1度合同会議開催及び相互連絡等を密に行い、世界規格としてのMIDI規格（RP,CA他を含む）普及拡大がなされました。これは米国側のMMAの協力、特にトム・ホワイト会長等に負うところが大きいものでした。

AMEIでは、初代日吉会長、梯副会長のもと、MIDI規格委員会では、前述の如く各種MIDI規格が多数作成されました。これらは、ヤマハの二間瀬さん、ローランドの富田さん、松下電器の宗廣さん、松本さん、ビクターの飛河さん、小杉さん、コルグの三枝さん、カシオの福田さん、リットーミュージックの中島さん、その他関係者各位が、お忙しい中、大変熱心に規格作成に取り組んで頂いたお陰です。大変感謝しております。また、MIDI規格作りと併せて、元全国電子電気協会、元

MIDI規格協議会、音楽電子事業協会等のOBの人達との集まり（懇親会）も開催し、ローランドの則安さん、澤野さん、大和さん、ヤマハの今泉さん、二間瀬さん、西本さん、コルグの三枝さん、宮間さん、横幕さん、平野さん、松下の宗廣さん、ビクターの石橋さん、河合楽器の尾林さん、袴田さん、リットーミュージックの中島さん、岩瀬電子の岩瀬さん、AMEI事務局の神川さん等多くの方々と、交流・親睦がはかられ、特に楽器フェアの開催の際、その他宿泊旅行等で近況報告・電子・楽器談義などが行われ、現在でも電楽会で引き続き行われております。

最後に、私にとって、音楽電子事業協会を通じて、MIDI規格作りや、MIDI規格作りを通して多くの良き人達と知遇する機会が得られたことは、貴重な体験であり思い出でもあり大変感謝しております。今後の音楽電子事業協会の益々の発展を願っております！

第2代（2000～2005）MIDI規格委員会委員長 加藤 世紀

MIDI規格委員長を拝命したのは、ちょうど2000年のことでした。当時はMIDIの制定から既に二十年ちかく経っていましたから、MIDIは大半の電子楽器にいきわたり、その応用範囲を楽器以外の音楽分野にひろげはじめた頃です。カラオケをはじめ音楽と電子機器に関係するものすべてが、何らかの関係でMIDIを必要としたのです。

様々な課題がありましたが、携帯電話等モバイル機器での利用もその一つです。もちろんスマホは未だ登場していません。

着メロやi-modeや写メールが、はじまったばかりの時代です。当時の携帯電話は、映像や音楽の膨大な情報量をそのまま送受できる性能ではありませんでした。着信音は単純な電子音から電子楽器にも使われる音源方式に変わり、情報圧縮という点でも非常に有利なMIDIの活用が話題になったのです。

しかし各社ばらばらの規格ではユーザーが困ります。気心の知れた楽器業界とはスタンスの異なる通信会社との交渉等もありました。それでもモバイル機器での利用を考慮した、軽い規格General MIDI Liteをまとめることができたのは、新しいデバイスの登場に何としても対処しようとした、時代の要請とMIDI規格委員全員の熱意だったと思います。

今ではスマホで音楽はあたりまえの時代になりました。MIDIが未来技術遺産として登録されるとの報せを聞き、そういった時代もあったのだと懐かしく思います。

（注）着メロは（株）ビジュアルアーツ、i-modeは（株）NTTドコモ、写メールはソフトバンク（株）の登録商標です。

第3代（2006～）MIDI規格委員会委員長 飛河 和生

Chinaツアー開催、そして、今年発表のMIDI 2.0の制定など様々なことがありました。

MIDIの技術審議で最も思い出深いのは、まだ新入りの委員の頃、CD+MIDIとともにGeneral MIDIの提案をさせて頂いた時のことです。当時は、電子楽器の共通化に対して個性を失うということから、多くの反対意見が寄せられました。GMシステム・オン/オフによって各楽器の個性を活かしながら互換性を持たせるという解決策によって標準化に至り、現在も世界中で使われています。

これからもAMEI会員の皆様のご協力とご支援を賜りながら、MIDIの輝かしい未来に向けて努力して参りたいと存じます。

今後ともご指導・ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



このたびはMIDI1.0規格が未来技術遺産に登録されたとのこと、おめでとうございます。MIDIが人々の技術遺産として歴史に残ることを大変嬉しく思うと同時に、MIDI2.0とともにこれからも電子楽器や音楽シーンをはじめ様々な分野にて多くの人々に使われていくことを心より願っております。私はAMEIの前身であるMIDI規格協議会（JMISC）の時代よりMIDI規格の運営に参加させていただいております。平成18年度にMIDI規格委員長として就任させていただいてからは、MIDIの世界における機器互換性の維持管理、様々な新技術の検討と規格対応などをはじめ、音楽の演奏や音楽コンテンツ制作の未来に向けた新たな規格の制定をMMAとともに進めつつ、今も電子音楽の業界の発展のために努めています。

私が委員長に就任した頃は、着メロや通信カラオケなどMIDIのコンテンツ応用が盛んな時代でした。MIDIは今でも電子楽器の演奏や音楽制作の現場では積極的に使われています。その後、MIDI規格委員会では、IECでのMIDI国際標準化、W3CでのWeb MIDI API対応、中国MIDI商標交渉、携帯電話関連規格制定、規格書の無償ファイルダウンロード対応、委員会誓約書による知財権明確化、MIDI Visual Control、30周年記念事業、グラミー賞「テクニカル賞」のニュース、システムエクスクルーシブ会員の制定、NAMMやMusic

お見舞い
 一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆さまのご健康を
 心よりお祈り申し上げます。

会員名簿

50音順 2020年5月13日現在

あ	す	や
<ul style="list-style-type: none"> AlphaTheta 株式会社 Apple Japan 合同会社 	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社ズーム 株式会社鈴木楽器製作所 株式会社ストーンシステム 株式会社スリック 	<ul style="list-style-type: none"> ヤマハ株式会社 株式会社ヤマハミュージックエンタテインメント ホールディングス
い	た	ゆ
<ul style="list-style-type: none"> 株式会社インターネット 	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社第一興商 大日本印刷株式会社 出版イノベーション事業部 	<ul style="list-style-type: none"> universe 株式会社
え	て	ろ
<ul style="list-style-type: none"> 株式会社エクシング 	<ul style="list-style-type: none"> ティアック株式会社 	<ul style="list-style-type: none"> ローランド株式会社
か	と	<正会員会社 27 社>
<ul style="list-style-type: none"> カシオ計算機株式会社 株式会社河合楽器製作所 	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社東京 MDE 	<ul style="list-style-type: none"> 中音公司 (中華人民共和国) 株式会社博秀工芸 株式会社ミュージックトレード社 株式会社リットーミュージック
く	な	<賛助会員会社 4 社>
<ul style="list-style-type: none"> クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 クリムゾンテクノロジー株式会社 	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社 nana music 	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社博秀工芸 株式会社ミュージックトレード社 株式会社リットーミュージック
こ	は	<賛助会員会社 4 社>
<ul style="list-style-type: none"> 株式会社コルグ 	<ul style="list-style-type: none"> パイオニア株式会社 	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社博秀工芸 株式会社ミュージックトレード社 株式会社リットーミュージック
し	ふ	
<ul style="list-style-type: none"> 株式会社シーミュージック 学校法人尚美学園 株式会社シンクパワー 	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社フェイス 	



一般社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) は、システム・エクスクルーシブ ID会員の募集を開始します。法人、個人を問わず楽器やMIDIアプリ、自作MIDI機器等を開発しようとするみなさまに、会員規程のもと、System Exclusive Manufacture's ID Numberを発行致します。

一般社団法人音楽電子事業協会

第9回通常総会議事録の開示について

AMEIホームページ <http://www.amei.or.jp/>の会員専用ページ
 会員専用ページへのアクセスはID及びパスワードの入力が必要です。
 お忘れの方はE-mailにて対応致します。

● 送付先: amei_info@amei.or.jp

● お名前、E-mail アドレス、会社名、所属、TEL、FAX を記入の上、お申込み下さい。

AMEI NEWS Vol.72 / 2020.9.28

一般社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行：一般社団法人音楽電子事業協会 事務局
 〒101-0061

東京都千代田区神田三崎町 2-16-9 イトービル 4F
 TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549

発行人：水野 滋

編集人：石黒士郎 (広報委員会)

編集協力：株式会社 博秀工芸

ホームページアドレス：

<http://www.amei.or.jp/>

